

ウクライナの 成り立ちと戦争

180781179

遠藤幹也

目次

- 序章 はじめに
- 第1章 独立前のウクライナ
- 第2章 独立ウクライナ
- 第3章 独立後のウクライナ
- 第4章 現在のウクライナ
- 終章 今後の展望

はじめに

2022/2/24、ロシアがウクライナに対し、ロシア系住民の保護を目的とし、「特別軍事作戦」を発表、侵攻を開始した。

ロシアとウクライナの問題は、ここ数十年によるものではなく、約**500**年前から続く歴史的問題が発端になっている。

本稿では、ウクライナ国家の成り立ちから現在起こっているウクライナとロシアの戦争状態について、歴史的観点を踏まえて紐解いていく。

I 章

独立前のウクライナ

1.1 現在のウクライナ概観



ウクライナは、ヨーロッパにある共和制国家。首都はキーウ(キエフ)。


国土面積は60万3700平方キロメートル(日本の1.6倍)。

人口は約4100万人(人種構成はウクライナ人**77.8%**、ロシア人**17.3%**、ベラルーシ人**0.6%**、モルドバ人、クリミア・タタール人、ユダヤ人等)。

公用語としてウクライナ語があるが、ロシア語に比して古代スラブ語が根強く、ベラルーシ語、ポーランド語、スロバキア語の順に共通する語彙多数。

1.2 ウクライナに定住した民族たち


A) 紀元前6世紀、イラン系騎馬民族スキタイが進出

 現在のウクライナ中心部から南部にスキタイ人国家を成立

B) 8世紀末頃、リューリック一族がキエフにキエフ・ルーシー公国を建国

最盛期のヴォロディーミル聖公の時代には、ヨーロッパ最大の版図

息子のヤロスラフ賢公は、「ヨーロッパの義父」と他国から畏怖


息子たちの間で権力闘争、半世紀継続

1.2 ウクライナに定住した民族たち

C) 遊牧民族であるボロヴェツ人がキエフ・ルーシー公国内を蹂躪

➡ ビザンツ帝国への安全な交易航路の喪失

最大の取引相手を喪失、経済は衰退の一途

➡ 孫のヴォロディーミル・モノマフによって国内は安定

彼の死後、公国はゆっくりと国を解体

1.2 ウクライナに定住した民族たち

D) 内政面

a) 兄弟相続から父子相伝 ➡ 領地の維持・拡大が最大の関心事

➡ 公国のトップ「大公」の地位が低下、諸公達の分離・独立

b) 12世紀には10～15の公国に、実質的に連合体

↓
ボロヴェツ人との勢力闘争に発展

1.2 ウクライナに定住した民族たち

E) 経済面

a) イスラム勢力によって、西欧とビザンツ帝国との交易路遮断

➡ 代替ルートにキエフ・ルーシー公国

しかし、12世紀までにイスラム勢力は十字軍により討伐

キエフを通過するルートの重要性が低下

➡ 商人は貴族・公へと変貌

1.2 ウクライナに定住した民族たち

F) 商品経済から農業中心の自給自足経済

a) 活発だった経済は停滞

G) 1240年、モンゴル軍の侵攻

a) 内部での小規模対立とは別様、国との戦争

➡ 機動力・統制力・破壊力の差によって国は崩壊

1.3 ウクライナを作り上げたコサック

A) 15世紀頃、南部のステップ地帯に定住した集団

➡ 出自不問の武装集団「コサック」が形成

B) 16世紀初頭までにコサックは武装、組織化

a) 家畜を窃盗、商人を襲撃

b) クリミア汗国で奴隷となっていたキリスト正教徒を解放

1.3 ウクライナを作り上げたコサック

- C) 勢力拡大後コサックは、集落を形成
 - a) コサックの街は長「ヘトマン」によって統治
 - b) 満足しない者は要塞「シーチ」を製作
 - 拠点周辺を「ザポロージェ・シーチ」と呼称
- ➡ ザポロージェがウクライナのコサックの中心

1.3 ウクライナを作り上げたコサック

- D) ウクライナのコサックは「ザポロージェ・コサック」と呼称
- a) 力をつけ、17世紀にキエフを再建
 - b) モスクワの本拠地をキエフへ移転、正教を保護
- E) ヘトマンのボフダン・フメリニツキーによって自治獲得
- a) 1654年ポーランドとの戦闘が劣勢 → ロシアに庇護
 - b) ロシアからの自治(独立)を許可 → 次第に統制を強化

2章

独立ウクライナ



2.1 ロシアへの併合

A) 17世紀末から18世紀初頭、ロシアによる統制は強化

a) この間にコサックの首長へトマンの選出を禁止

→ 実質的にウクライナは政治的発言権をはく奪

B) 1725年、ピョートル大帝が死去

→ へトマン制度の復活

しかし、アンナ女帝は後任のへトマン選出を禁止

2.1 ロシアへの併合

C) エリザベータ女帝(在位1741~62)が即位、事態は好転

a) 秘密裏にウクライナ青年と結婚

この青年によって女帝がウクライナに同情、扇動成功

➡ 干渉は減少、ヘトマンの再選出によって権威が上昇

D) エカテリーナ二世(在位1762~96)が即位

a) 以前の政策を踏襲、ヘトマンを強制退任、弾圧を強化

移住したコサック
自治地区

2.1 ロシアへの併合

- b) 1765年、二世は「スロボダ・ウクライナ」の自治を廃止
 - c) 次にサポロージェ・コサックを廃止
 - d) 最後にヘトマン国家の廃止
- 小ロシア議会(ヘトマン廃止後の意思決定機関)を廃止
- 三県を設置、それぞれに知事を任命
- さらに、コサックの連隊制度を廃止、ロシア軍へ編入

2.1 ロシアへの併合

E) ウクライナの消滅

a) ヘトマン国家が消滅

ロシア、プロイセン、オーストリアの三国に完全に分割



ウクライナは政治上地図から消滅

2.2 ウクライナの農業化と工業化

A) ロシア皇帝アレクサンドル二世(在位1855～81)が即位

a) 1861年にウクライナ人への農奴制が廃止

b) 地方行政・教育・司法などの改革

➡ 農奴から農民、土地取得の対価が高く更に貧困

2.2 ウクライナの農業化と工業化

B) 新大陸への移民


a) 1880年より開始、アメリカとカナダの農業地帯へ移住

1881年～1912年に43万人+17万人が移住

2.2 ウクライナの農業化と工業化

D) 工業化

a) ウクライナの工業化・近代化の前駆は**鉄道建設**

 ウクライナにおいては、**穀物輸送**のために**1865年**に建設
1870年には主要都市間、キエフとモスクワを結ぶ鉄道が建設

2.2 ウクライナの農業化と工業化

E) 重工業の急成長

a) 石炭採掘産業が発展

➡ 1870～1900年の間にドンバス地方の石炭生産は**1000%**増加


b) 製鉄業も発展

➡ 鉄鉱石の採掘が**158倍**に増加

2.2 ウクライナの農業化と工業化

F) 工場労働者の確保

- a) 工場労働者は近郊の農村などから招集が一般的
ただ、都市部にはロシア人労働者が多数

 ウクライナ人にとって悪環境

19世紀末には、ドニエプル川流域では人口の34%がロシア人

2.2 ウクライナの農業化と工業化

F) 工場労働者の確保

a) 1860年、8.2万人だった労働者数は1914年には630万人に上昇

b) 短期間で工場を建造、労働環境は劣悪

➡ 低賃金、安全・医療対策は皆無

c) 労働者と雇用者との間の紛争は増加

➡ 労働者はプロレタリア化

2.3 ウクライナの独立

A) 1922年ソ連(ソヴェエト社会主義共和国連邦)という新国家

a) 第一次世界大戦とロシア革命で帝政が崩壊

➡ 民族自決の原則に従って旧ロシア帝国は分裂

B) ウクライナの犠牲

a) 右岸左岸ウクライナは両国の戦争に参加

2.3 ウクライナの独立

B) ウクライナの犠牲

b) 英仏側の「連合国」とドイツ側の「同盟国」に参加

➡ 同じウクライナ人が敵味方に分離、戦争が開始

C) 中央ラーダ設立

a) オーストリア支配下のウクライナ人(右岸ウクライナ)

1914年8月に「全ウクライナ評議会」を結成

2.3 ウクライナの独立

食糧不足に抗議、
労働者のデモ

c) 中央ラーダ設立


b) ロシア帝国下のウクライナ人(左岸ウクライナ)

1917年2月、首都ペトログラードで二月革命が勃発

→ ニコライ二世は退位、ここにロシアの帝政は終焉
代表が集結、「ウクライナ中央ラーダ」が結成

2.3 ウクライナの独立

D) 中央ラーダの要求

a) 連邦ロシアに使節団を派遣、自治を要求  ロシアは拒否

 同年6月 「第一次ユニヴェルサル宣言」 を発表



完全独立までは消極的

2.3 ウクライナの独立

D) 中央ラーダの要求

b) 内閣執行機関として「**総書記局**」を設立

➡ 作家の**ヴィンニチェコ**が就任

c) 第二次ウニヴェルサル宣言

➡ 臨時政府は中央ラーダを容認、**5県で限定承認**

ここでウクライナの自治独立が承認

2.3 ウクライナの独立

F) ソビエト連邦樹立

a) 第三次ユニヴェルサル宣言

「**ウクライナ国民共和国**」の創設を宣言



不明慮な存在のウクライナが初めてウクライナとして存在

2.3 ウクライナの独立

G) 中央ラーダ消滅

a) 1917年12月、ソビエト政府の最後通告

→ ウクライナ政府はこれを拒否
結果、キエフが陥落、130キロ西方のジトミールへと撤退

両国へ1000万トン
の食糧を供給

b) ドイツ、オーストリア両国からの支援

→ 1918年2月にブレスト・リトウスク講和条約を締結

2.3 ウクライナの独立

G) 中央ラーダ消滅

c) 食料1000万トンの用意は不可

ドイツは同年4月、中央ラーダの議会に乱入

→ フルシェフスキー大統領の抗議を無視

↓
民主主義中央ラーダは消滅

2.3 ウクライナの独立

H) ウクライナの独立

a) 1939年の第二次世界大戦、ドイツがウクライナの大半を占領

➡ その後ロシア軍(ソ連軍)がドイツからウクライナを奪取

b) 1945年の終戦後、構成共和国でありながら国連加盟

c) 1954年にはロシア・ウクライナ併合300年

➡ クリミア半島の領有権をロシアからウクライナへ返還

2.3 ウクライナの独立

H) ウクライナの独立

d) 1990年7月16日、ウクライナ共和国主権宣言を発表

同年12月1日、完全独立と初代大統領の選出選挙が開催



独立には90.2%が賛成、クラフチュークが62%の支持で当選

2.3 ウクライナの独立

H) ウクライナの独立

e) 同年12月7～8日、ソ連は解体、**独立国家共同体(CIS)**が誕生

➡ ソ連解体と同時期、諸外国は**ウクライナの独立**を承認
また、**ロシア共和国**の承認も獲得



1991年8月24日、**ウクライナ**は名実ともに**独立国家**

3章

独立後のウクライナ

3.1 独立後のウクライナの歩み

A) 1991年末、独立国家共同体(CIS)創設条約に調印

B) 脱露入欧政策

a) 経済面では1992年10月、欧州共同体(EC)への加盟を宣言

⇒93年、ロシアのエネルギー価格の国際化によって経済崩壊

b) 93年半ば、早くもロシアとの経済再統合を模索

⇒94年、大統領選挙では「ウクライナ東西分裂」を観測

3.1 独立後のウクライナの歩み

B) 脱露入欧政策

c) 安全保障面では、軍事的中立を表明

⇒ 旧ソ連戦略核兵器の搬出を拒否、欧州安全体制から孤立

d) 隣国ロシアとはあらゆる分野で対立

⇒ 黒海艦隊分割、クリミア帰属問題は武力紛争の危険性

3.1 独立後のウクライナの歩み

B) 脱露入欧政策

e) 国民統合政策はうまく機能

⇒曖昧さを残すことで一様支配を防ぎ、民主主義へと直結

3.2 国際環境の変化とオレンジ革命

A) アメリカの経済援助と安全保障の確約

⇒ ウクライナから核兵器が搬出

⇒ 国際通貨基金(IMF)からの融資、経済危機を打破

B) ヨーロッパ統合・ロシアとの協力拡大

⇒ 欧米・ロシア間のバランスをとる外交

⇒ 1997年、NATO・ロシアそれぞれと条約を締結



3.2 国際環境の変化とオレンジ革命



C) オレンジ革命

- a) 部分的経済改革・民営化で、オリガルヒや地方経済ボス誕生
⇒ 1999年以降、民主主義が後退し、汚職が蔓延
- b) 2004年、大統領選挙が開始
ヤヌコーヴィチとユシチェンコの二人が立候補
⇒ 当初の開票ではヤヌコーヴィチが勝利

3.2 国際環境の変化とオレンジ革命

C) オレンジ革命

しかし、ヤヌコーヴィチの不正疑惑が浮上

⇒最高会議はやり直し投票を決議

結果、ユシチェンコが**8%**の差をつけ勝利

⇒シンボルカラーと独立広場の熱狂からオレンジ革命と命名

3.2 国際環境の変化とオレンジ革命



© Sergey Dolzhenko/picture-alliance/dpa

3.2 国際環境の変化とオレンジ革命

D) 拍車のかかる脱露入欧政策

a) ユシチェンコは元々、脱露入欧政策が目的

⇒ EU・NATO早期加盟を表明

3.3 リーマンショックからクリミア併合

A) 2008年のリーマンショックによりロシアの天然ガスが高騰

⇒2009年、ウクライナ経済はマイナス成長に転落

これによりヤヌコーヴィチが現政権批判から大統領当選

⇒しかし、経済はマイナス成長

危機感を感じ、ロシアをパトロンとし、EU・NATO加盟休止

⇒引き換えに、天然ガス価格の値引きと輸出市場を確保

3.3 リーマンショックからクリミア併合

B) 2013年、ユーロマイダン革命

- a) ウクライナ経済を救った反面、現政権の腐敗が顕著化
⇒ ヨーロッパ統合路線からの逸脱から国民の多くが反発
- b) 2013/11/21、キエフ首都の独立広場で大規模デモが発生
⇒ 12/1には、デモ参加者が10万人を突破
⇒ 治安部隊と正面衝突、死傷者を出し、收拾が不可能

3.3 リーマンショックからクリミア併合



3.3 リーマンショックからクリミア併合

B) 2013年、ユーロマイダン革命

c) 2014/2/22、周辺国からの手助けによって事態は收拾

⇒ ヤヌコーヴィチは逃亡、27日にロシアへ亡命

C) ウクライナ暫定政府樹立、**親欧州路線**を採択

a) ロシア政府は暫定政府を承認せず、無政府状態と決定

⇒ **ドンバス地方の新ロシア派を扇動、一斉蜂起**

3.3 リーマンショックからクリミア併合

- C) ウクライナ暫定政府樹立、親欧州路線を採択
 - b) ドネツク人民共和国とルハンスク人民共和国が誕生
 - ⇒2015年、両共和国とウクライナでミンスク合意が締結
- D) 2014年3月、ロシアがクリミアを一方的に併合
 - a) ウクライナのNATO加盟を危惧、統治機構を占拠
 - ⇒ロシア系住民によってロシア編入を望むデモが発生

3.3 リーマンショックからクリミア併合

D) 2014年3月、ロシアがクリミアを一方的に併合

b) クリミア議会はロシア編入案を全会一致で可決

3/16に住民投票、圧倒的多数がロシア編入を支持

⇒3/17、露プーチン大統領がクリミアを独立国と承認

わずか19日間でクリミアはロシアへと併合

4章

現在のウクライナ



4.1 ロシアによるウクライナ侵攻概要

A) 2022/2/24、ロシアの「特別軍事作戦」が開始

⇒ロシアへの経済制裁は無意味、戦争に発展

B) ウクライナ本土に相当な被害

⇒人的被害、インフラ施設、文化遺産等が破壊

軍事施設以外への攻撃は国際人道法違反

⇒11月現在、ウクライナ軍が優勢



4.2 ロシアの侵略理由と目的

A) 大きな要因は **ウクライナのNATO加盟阻止**

⇒ **NATO**は米の同盟、冷戦状態の露からすると隣国が敵国化

B) プーチンの言説

a) 同人の論文「ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性」

⇒ パートナーシップの復活によって **「真の主権」** 獲得

4.2 ロシアの侵略理由と目的

C) ウクライナの非ナチス化

a) ゼレンスキー政権転覆の示唆の可能性

⇒NATO加盟阻止ではなく、**ウクライナ自体の打破**

b) 歴史的に見ると、独立前のウクライナはロシアの属国

⇒プーチンの認識では属国、自国の影響化に置くのが目的

4.3 長期化するロシア・ウクライナ戦争

A) 侵攻当初、ウクライナがすぐに瓦解すると予測

⇒ アメリカと欧州の継続支援

B) アメリカの思惑

a) オバマ政権時代から、露に経済制裁、ウクライナには支援

⇒ 間接的な政治介入

4.3 長期化するロシア・ウクライナ戦争

B) アメリカの思惑

b) トランプ政権下では、経済制裁と備品関連支援

c) バイデン政権下では、経済制裁と武器・武装支援(過去最大)

⇒ 間接的政治介入から代理戦争

4.3 長期化するロシア・ウクライナ戦争

C) EUの思惑

- a) 侵攻当初から難民受け入れ・資金援助を実践
ウクライナ軍の支援として、特殊訓練の提供
- b) 次に狙われるのは欧州、**NATO**加盟国の可能性
⇒ **ウクライナでロシアの侵攻を阻止する目的**

4.3 長期化するロシア・ウクライナ戦争

D) ロシア軍の脆弱性

a) 各国の支援によってウクライナは情報戦をリード

⇒ ロシア軍の行動を予測、作戦行動を阻止

b) 前線司令官の暗殺、指揮系統の混乱、ロシア兵士の士気低下



各国の支援とロシア軍の脆弱性から戦争は長期化

今後の展望

A) ロシアによるウクライナ占領の完遂

⇒各国からの支援の打ち切りによって、ロシアが勝利

B) ウクライナによるロシア軍の完全撤退

⇒大国ロシアの疲弊によって、ウクライナが勝利

C) ロシア・ウクライナ国内で政変

⇒ロシアでは、各地で大規模なデモが発生中

⇒近い将来、ロシア国内で政変が起き、戦争が終結すると考察

参考資料

- [ウクライナ南東部、親露派300人が内務省軍を襲撃 3人死亡 写真1枚 国際ニュース：AFPBB News](#)
- [A brief history of corruption in Ukraine: the Yushchenko era | Eurasianet](#)
- [現在もスターリン「虐殺」の鎖に縛られ続けるウクライナ | 猫組長POST \(theletter.jp\)](#)
- [ウクライナ地図 - 旅行のとも、ZenTech \(travel-zentech.jp\)](#)

参考資料

- [革命之颜色：从橙色革命到伊朗的“绿潮” | 德国之声 来自德国 介绍德国 | DW | 16.08.2019](#)
- [Learn Japanese by playing games! Gain exp points, level up, and get ranked! \(japaneseclass.jp\)](#)
- [da-hs.lwsd.org](#)
- [2014年、ユーロ・マイダン革命... 「あの時、誰かがピアノを演奏していたんだ」 | まちポレいわき \(JRいわき駅前の映画館\) \(machipole-iwaki.com\)](#)